

氏 名	野 中 健 一
学位(専攻分野)	博 士 (理 学)
学 位 記 番 号	論 理 博 第 1358 号
学位授与の日付	平 成 11 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	セントラル・カラハリ・サンの民族昆虫学的研究

(主査)

論文調査委員 教授 田 中 二 郎 教授 西 田 利 貞 教授 堀 道 雄

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、ボツワナ共和国の中央カラハリ砂漠に生活する採集狩猟民サン（グイ・ガナ＝ブッシュマン）を対象として、彼らと昆虫との関わりを分析したものである。

申請者は、従来の採集狩猟民研究において見落とされがちであった昆虫の利用を取り上げ、サンの人々が対象とする昆虫の選択・獲得・利用の連関に着目することによって、彼らの自然資源の利用の広範さとその利用の理由を実証的に検証した。

主論文1では、彼らの生活の中で、どんな種類の昆虫が、どのような用途に利用されているのかを克明に分析した。その結果、食用、狩猟、薬用、生活用具、装飾、美容、遊びと、生活の多方面にわたって何種類もの昆虫が利用されていることを明らかにした。これらのうち、狩猟に用いられる弓矢の毒（ハムシ幼虫）や主要な食料源として用いられる昆虫（ガの幼虫、バッタ、シロアリ、タマムシ）のように、彼らの生計維持活動に重要な役割を果たすものもあるが、そうした実用的な役割以上に、装飾や娯楽など彼らの日常生活に彩りを加え、生活を質的に豊かにする効果を生み出しているものも多いことを明らかにし、昆虫の利用がサンの生活の質的側面に大きく貢献していることを指摘した。

主論文2において、申請者は、昆虫の食物利用について、採集・調理・食用の一連のプロセスを解明することによって、食生活における昆虫食の役割を綿密に分析した。食用昆虫のうち、容易に大量に採集できる種類は、主要な食料資源となりうるが、採集できる季節が限定される上に天候による発生数の年変動が大きいため、生計維持にとって欠くことのできない食料資源として位置づけることは困難であり、むしろ、他の食物も充足できるような好条件の下で利用できる余剰的な食物であることを明らかにした。さらに、たとえ採集できる量がわずかでも、積極的に採集され、食用にされる昆虫があることを示すとともに、これらの昆虫が少量であるにもかかわらず熱心に利用される理由を詳細に検討した。その結果、昆虫はそれぞれの風味や味覚、食感が味わわれており、これらを嗜好品や調味料として巧みに用いることによって食事のバラエティーを増大し、サンの食生活を質的に高める役割を果たしているとの重要な指摘を行った。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

これまでの採集狩猟民に関する生態人類学的研究において、採集狩猟民は、多くの自然資源に依拠し、それらを多様に利用する「ジェネラリスト」であることが指摘されている。しかしながら、自然資源の利用に関しては、これまでは生計維持活動を主眼においた研究が多く、とくに、食料資源のエネルギー量やタンパク量などの栄養価に研究の力点がおかれていた。そのために、動物性資源では、摂取カロリー・タンパク量ともに大きなウエイトを占める哺乳類がとくに注目されてきた。

申請者の研究は、マイナーな食料資源として従来見過ごされてきた小動物のうち、昆虫の利用に着目し、長期の直接観察と聞き込み調査によって、人と昆虫の関係について、綿密な記載と分析を行ったものであり、従来の採集狩猟民研究において欠落していた重要な部分を補う民族誌的研究として高く評価できる。

申請者は、研究者はもちろん、サン自身によっても、ともすれば「役立たず」と見なされがちな昆虫に対して徹底的な調査を行い、実際にはサンが少なくとも168種もの昆虫に148の方名を与えて識別し、食用、薬用、生活用具など生計維持に必要な基本的な側面から装飾、遊び、物語の題材に至るまで、生活過程のあらゆる側面にわたって、昆虫と親密な関係を結んでいるという興味深い事実を明らかにした。

また、申請者は、食用昆虫については、食生活における量的貢献というよりも、食事の内容を豊かにするという質的貢献が重要であることを明らかにし、リー、サーリンズら採集狩猟社会研究の先駆者が提唱した「始原的な豊かさをもつ生活」の再検討を促した。すなわち、採集狩猟生活があり余るほどの余暇に恵まれたものであるという「量的な時間の豊かさ」に加えて、そこで使われる時間が彼らの文化の質を高めるという意味で質的にも豊かであることを、昆虫類などの周縁的資源との濃密なかかわりを描き出すことによって明らかにした。この点も、従来の研究に欠落していたものであり、高く評価できる。

従って、本申請論文は博士（理学）の学位論文として十分な価値を有するものと認める。なお、主論文に報告されている研究業績を中心に、参考論文の内容、ならびにこれらに関連した研究分野について口頭試問を行った結果、合格と認めた。